

会 報

兵 小 長

第 165 号

令和6年12月6日

兵 庫 県
小 学 校 長 会

令和六年度県教委との教育懇談会報告

事務局長 赤木裕之

「令和の日本型教育」の一層の構築や、県小学校長会の活動方針である「生きる喜びと夢をもち 在りたい未来をともし創る子どもの育成」に向け、県教委と連携を図っていくことは、より重要性を増しています。

各地区・各支部から集約された意見をもとに県小学校長会が資料を作成し、年二回の教育懇談会を実施して意見の交換が行われました。

【第一回教育懇談会までの経過】

◇四月十九日

- ・第一回理事・地区長会
- ・教育懇談会に向けての事務連絡

◇五月二日

- ・第二回理事・地区長会
- ・合同委員会・各委員会
- ・教育懇談会に係る日程等の説明

◇五月三十日

- ・第一回教育懇談会準備委員会
- ・調査項目の検討

- ◇六月二十日・二十一日
- ・第三回理事・地区長会
- ・第二回教育懇談会準備委員会
- ・調査項目の確定、全支部へ意見集約依頼

◇七月三十日

- ・第三回教育懇談会準備委員会
- ・教育懇談会資料の確定、役割分担
- 【第一回教育懇談会】

八月二十三日（県民会館）

校長会は、会長以下理事・地区長・教育懇談会準備委員・へき地教育代表の計二十一名、県教委は村田教育次長をはじめ関係各課の計二十二名が出席。重点的にお願いしたい内容を中心に説明。簡単な質疑応答及び懇談。

【第二回教育懇談会】

十月二十八日

（神戸市総合教育センター）
校長会は、会長以下理事・地区長・監事・教育懇談会準備委員・へき地教育代表の計三十二名、県教委は秋田義務教育課長をはじめ関係各課の計二十一名が出席。

第一回教育懇談会において、お願いした内容への県教委からの説明の後、質疑応答及び懇談。

『県教委からの説明内容』

- 兵庫型学習システム推進教員の弾力的運用

・本年度から外国語の専科教員の要件の弾力化等、図ってきた。
・国の動きを踏まえ、中学年への加配や指導経験三年未満の配置等検討を進めている。今後も教科加配教員の弾力的運用ができるよう国に要望していく。

○基礎定数の改善とフルタイム加配教員の増員
令和六年度は教科担任の部分で常勤の配当を増やした。しかし、加配定数には限りがあり、全てのフルタイムの加配教員の増員は困難。

・さらなる教職員定数の改善を図るよう、引き続き国に強く要望していく。

○特別支援教育の充実

・特別支援学級の学級編成基準があるが、県独自で五名以上在籍する学級に一部加配を配置している。

・定数措置の改善について、引き続き国に強く要望していく。

○生徒指導に関わる人的措置の充実
各校から配置の要望が多いことは聞いている。各市町組合教育委員会等と連携を図り、各校の実態に即して配置をしている。今年度も加配数の増加を国に強く要望していく。

二兵庫の教育を担う人材の確保と育成
○管理職及び教職員の待遇改善
・県政改革方針のR5実施計画において管理職手当の減額率が縮小された。（教頭12%↓8%、校長は12%のまま） R6計画は今後の検討。

・八月に中教審の答申が出された。管理職の給料も見直す等、国の動向を注視しながら適切に対応する。

○教員採用制度について
・優秀な教員の確保という観点から、

臨時講師の経験等を含めて、教員採用試験の改善に努めていく。

三実効性のある働き方改革の推進
○自然学校の弾力的実施について
・四泊五日の長期宿泊体験を通して、子どもたちの生きる力を育成したい。

・様々な状況を抱えた子どもたちや物価の高騰等、実施にあたって課題があることは認識している。

・今年度、業務負担や費用負担等の現状把握や負担軽減を図るための支援策の検討、意義や魅力について見つけ直し・発信する「兵庫型『体験教育』の魅力発信検討会議」を実施している。予算措置も検討している。

・昨年度末から教員養成系の大学等と連携し、指導補助員（リーダー）バンクを作成し、情報提供している。

四へき地教育の一層の振興
・指導体制の充実に向け、教職員定数や財源等の支援の拡充を国へ求めている。

五その他校長会より
・年度途中の欠員補充については、弾力的な配置を今後もお願いしたい。

・次期学習指導要領に向け、カリキュラム・オーバードロードにならないように、「少なく教えて、豊かに学ぶ」という視点で指導していただけたらという、よろしくお願いしたい。等

【今後に向けて】
この二回の教育懇談会では、自然学校のあり方等、多くの意見が出されました。我々校長会からの話に真摯に耳を傾けていただき、現場と同じ思いで取り組んでいただいていることが伝わってくる懇談会となりました。

（神戸市立成徳小学校長）

「居場所」

副会長 林 隆 浩

「校長先生、折り紙教えてください」
 業間になると、子どもたちが折り紙を持って校長室を訪ねてきます。子どもたちは校長室前に置いてある折り紙の本を手にそれぞれ折り始めます。「校長先生、この怪獣つくりたいねんけど」「これを作ろうと思ったら、めちゃめちゃ大きな折り紙があるよ」
 折り紙を始めたのはコロナ禍で全国一斉臨時休校となった時期でした。ユーチューブを見ると、今まで作ったことがない作品がたくさんアップされています。見よう見まねで作っていくうちに、より難しい作品に挑戦したくて何冊か本も買って作ってみました。完成した作品を校長室前に飾っておくと、子どもたちが手に取って眺めたり、遊んだりしている姿が見られるようになりました。ある時、六年生児童が「学校の中で好きな場所」というテーマで書いた掲示を目にしました。その中に「校長室前 理由は落ち着くから」と書かれていました。こんな下手な折り紙でもこれを見て心を落ち着けてくれる児童がいるんだなと少しうれしい気持ちになり、学校が変わっても折り紙を折り続けています。

「折り紙教室」などと意図したわけではなく、子どもたちは気が向いた時にやってきます。大勢やってくる時であれば、一人でやってきて黙々と折り紙を折って時間になると戻っていきます。戻っていくときは誰もが「ありがたうございました」と言って教室に戻っていきます。私が何か教えているわけでもないのに。子どもたちにとって校長室が「落ち着く居場所」になっているのかと思います。

今年度、学校運営協議会の方々が「業間見守り隊」として居場所づくりを始めてくださいました。そこに行くのと、あやとりができたり、色塗りができたり等。誰かとではなくとも、自分が好きなことを落ち着いてできる場所です。子どもたちはその日を楽しみにしてくれています。また、一人でポツンと過ごしている子はいないか、校舎を見回ってくださっています。学校の中に自分が安心できる場所、「居場所」が少しずつ増えていき、誰もが学校が大好きになってくれるといいなと今日も折り紙作品作りに挑戦しています。

(伊丹市立池尻小学校長)

兵小長が私にくれたもの

副会長 西川 賢 次

子どもの頃、友人から西賢(にしけん)と呼ばれておりました。以下は自分の中に設定した【西】と【賢】の二人のキャラクターが繰り広げた会話の一部始終です。

【西】悔いのない一年でした。【賢】まだ終わってません。ところで、これまでの感想は？【西】神戸は素敵な街だと思えました。【賢】そういうことではなくて！(以下【賢】の小言がしばらく続く)【西】(急に真顔で)出張が多く、半日しか学校にいられない日が結構あります。【賢】ほう、それで？

【西】学校運営上、何を大切にしているかが、自分でよくわかるようになりました。【賢】学校にいられる時間が短い分、仕事の優先順位がよりはつきりした、ということですね。【西】(さらに真顔で)子どもたちや職員を信頼し、安心して留守を任せられるようになりました。【賢】えー？今まで信じていなかったの？【西】信じてはいましたけど、いらぬ口出しも多かったかな、と反省しています。【賢】それで？【西】みんな、私がいなくても生き生きと過ごしてくれているような気がしています。【賢】子どもたちと職員に感謝！ですね。【西】(これ以上なく真顔で)人は立場で生きています。【賢】急にどうされたのですか？【西】この立場だからその貴重な出会いをたくさん経験させていただきました。

【賢】そこから得たものは？【西】みんなちがうし、みんな同じ、という実感かな。【賢】みんなちがうとは？【西】県内七三九小学校のそれぞれに素晴らしい特色があり、それは他とは取り替えがきかないということ。【賢】みんな同じとは？【西】皆さんが自校の教育に愛情・情熱・熱意を精一杯注いでおられるということ。役員になり、それが身に染みてわかりました。【賢】それらが『兵小長が私にくれたもの』なのでですね。【西】本当にいい一年でした！【賢】だからまだ終わってません！

兵小長活動の主力は、現役の校長先生方です。当たり前の話ですが、皆がそれぞれ愛する自分の学校に思いを残しながら、全力で兵小長の仕事をしております。そして私は、役員にさせていただいたことを心の一番深いところで喜んでおります。本当です。役員を経験しなかった自分と、今の自分を比べることはやはり不可能です。快く送り出してください。掛籠の校長先生方には、感謝しかありません。だから私は、自校の子どもたちと職員を誇らしく思いながら、同じ志を持って苦楽を共にする兵小長の仲間たちの顔を思い浮かべつつ、今日も明日もあさっても、KECに向かって突進するのであります。(すみません、少しおかげさです。そんなにしょっちゅうではありません。)(たつの市立香島小学校長)

主体性を育てる「問い」の力

副会長 上月 徳子

「こんな授業がしてみたい！」
 尊敬するA先生が、私の担任する学級で道徳の授業をしてくださった時に強く思ったことです。当時、担任していた学級は、積極性に乏しいことが課題であると思ひ込んでいました。ところが、A先生が教壇に立たれると、あつという間に子ども達が目を見開き、姿勢が前のめりになり、授業の半ばを過ぎたころには挙手する手が増えはじめたのです。それどころか、

「もう終わり？」
 「もつと言いたかったなあ」
 など、それまで聞いたことのない子ども達の声に、少なからずショックを受けたことを今でも記憶しています。

「子ども達の変容ぶりは一体・・・？」
 翌日、子ども達が書いてきた日記からその答えを知ることになりました。

「A先生は、ずっと、『それで？』って尋ねられたので普段よりも発表しました。でも、話せて楽しかったです」
 授業記録を読み返すと、発問欄には、「それで？」、「どう考えた？」など、多くの問いの言葉が並び、子どもの欄には多様な考えの発言がびっしりと書かれています。子ども達が、自分事としてとらえ、フルに頭を回転させながら、自らの意志で言葉を選び、考えを一生懸命伝えようとしていた姿を慮り、問いの力で主体性が促されたことに気づかされる機会となりました。

あれから数十年の年月が流れ・・・
 「校長先生、どうしたらいいですか？」
 「どうしたい？」

即答を期待する教職員には、がっかりさせてしまうかもしれませんが、教職員が主体的に自らのエンジンを動かすまでは、なるべく辛抱強く待つことに努めています。とは言いつつ、時間に追われているときは、「指示」に頼ってしてしまう時もありますが、教職員のモチベーションが上がるような「問い」を心がけたいと思っています。

では、モチベーションが上がる「問い」とはどんなものでしょう。

青山学院の原監督は、念願だった箱根駅伝への出場を決めた際、選手達に「君達はこの箱根をどう戦いたいのか」と問われたそうです。当時常勝校ではなかった青学の選手達が膝を寄せて相談し、「三位をねらいます」と監督に申告したところ、「じゃあ、それでやるう」と監督の二つ返事で、その年の目標は「三位になる」と決まったそうです。折角つかんだ出場権なので、「優勝するぞ」と意気込み、上意下達で目標を設定しがちですが、原監督は、選手に問い、委ね、選手の主体性を尊重しながら、青学を強豪チームへと引き上げていったのだそうです。

「どうして？」のような、過去を振り返るだけの問いではなく、「どうすれば？」、「どうしたら？」のような未来志向の問いが大切な要素であることがわかります。これからも、「それで？」、「どうしたい？」の決まり文句を連発しながら、主体的な教職員が主体的な子どもを育てることを信じ、着実に進んでいきたいと思っています。

(姫路市立林田小学校長)

地区の動き

阪神地区だより

阪神地区区長 万代典保

阪神地区小学校長会は、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町の七市一町の百七十八校で構成されています。

阪神地区小学校長会は「阪神は一つ」との思い、みんなで一緒に進む意識を大切にしています。総会は「書面総会」とし、負担軽減を図りました。そして

貴重な研修の場として、五月二十一日に川西市キセラホールで芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏を講師に招き、『主体的で対話的で愛のある学び』という演題でご講演をいただきました。

それぞれに教育環境の異なる七市一

播磨東地区だより

播磨東地区区長 田中康彦

本地区小学校長会は、三市二町の東播磨地区と五市一町の北播磨地区からなる十支部、百三十一校（義務教育学校二校舎）で構成されています。

今年度は、兵小長総会・研修会が本地区開催であったため、地区総会・研修会を兼ねることとしました。なお、地区総会は、コロナ禍四年間を踏襲しWebでの審議・表決としました。

しかし、教員未配置問題への対策、特別支援教育や不登校児童への課題等をはじめとする諸問題等については、対面での情報交換・情報共有や他市町との連携を強化することがとても大切であります。また、年度当初に播磨東

町が教育課程の編成・実施・評価改善に創意工夫を凝らし、学習指導要領を円滑に実施しています。そして確かな学力・豊かな心・健やかな体を身につけた知徳体のバランスの取れた子ども育成や、ギガスクール構想の推進等多くの課題に取り組んでいます。

年間八回、役員会を各市町持ち回りで開催し、阪神教育事務所からの指導伝達、各市町教育長からご挨拶をいただいています。また、前述した様々な取組の具体的な内容や、各市町で抱えている課題等の情報交換を行うことで、解決に向けた糸口等を得ることができています。

今後も「阪神は一つ」を合言葉に、様々な課題に対して、良い方向に進めていけるよう取り組んでまいります。

(猪名川町立猪名川小学校長)

教育事務所長の講話を通して、県教委の示す教育施策の重点項目や方向性をつかむ校長研修も必要であります。そこで来年度は、元来規約に明記されている【全会員の出席による総会】を開催することを本地区幹事・役員会にて確認しました。ただし、審議・表決についてはWeb上で行う等、業務改善を継続します。

本地区においては、特に北播磨地区での学校再編による統廃合により学校数が激減する市町が複数あります。今後、役員等の輪番に係る複数の市町によるブロック制についての検討を進める等、持続可能な体制づくりに努めてまいります。

(加古川市立東神吉南小学校長)

西播磨地区だより

西播磨地区長 井 口 浩 一

西播磨地区小学校長会は四市三町、六支部、五十六校で構成されています。北は山間部から南は瀬戸内海に面する豊かな自然と歴史が調和する地域です。

また、千人を超える大規模校を抱える市街地域から適正規模化により来年度には統合する学校、町全体が過疎地指定を受け、令和十年度には町内にある小学校五校と中学校一校が小中一貫校として開校を迎える地域もあります。

そのような状況の中、市内の中学校区を小中一貫教育でつなぐ、試みやコミュニティスクールにより地域と連携した教育を展開するなどの特色ある取組も進められています。このような各支部

但馬地区だより

但馬地区長 吉 岡 靖 磨

但馬地区小学校長会は、五市町、五十四校で構成されています。

今年度は、「生きる喜びと夢を持ち在りたい未来を創造する子どもの育成」をテーマに、但小長総会・研修会を開催し、但馬の教育のさらなる充実に向けて取り組む事を共有しました。

また、秋には但小長経営研究大会を開催しました。分科会では、①学校経営

②教育課程（学力向上）③さまざまな教育課題（生徒指導、人権教育、健康教育、特別支援教育）④現職教育（教職員の資質の向上）の四つのテーマで行い、各校の取組を持ち寄って活発な意見交流が行われました。年に二回で

での特色ある取組だけでなく、課題についても隔月開催の西播磨地区幹事会で情報共有し連携を深め、英知を出し合って歩みを進めています。

今年度、総会・研修会・交流会を五月十一日にたつの市「志んぐ荘」で開催しました。研修会では、義肢装具士の菅野ミキさんを講師に『履きたい靴をあきらめない』と題した講演をしていただきました。また、交流会を通して親睦を深め、「西播磨は一つ」の思いを強くしました。

これからも「子どもたちをまんなかにしたウェルビーイング」の実現に向けて西播磨から兵庫のよさ、強みを発信できるような活動を推進していきます。（たつの市立新宮小学校長）

地区の動き

すが、但馬地域の全小学校長が一堂に集まり、絆を深める機会を持てたことは、大変有意義だったと考えています。

その他、今年度の大きな動きとして、香美支部と新温泉支部の支部統合があげられます。香美町は、段階的に学校再編が進められ、現在八校ある小学校が令和十年には三校になることが計画されています。支部として機能することが困難になることが予想されるため、香美・新温泉支部統合委員会を立ち上げて協議が進められています。現在、但小長としても但馬地区全体の取組として、協議しているところです。

今後、「但馬は一つ」の合言葉のもと、つながりを深め、力を合わせて取組を進めてまいります。

（豊岡市立新田小学校長）

淡路地区だより

淡路地区長 徳 梅 昌 行

淡路地区小学校長会は、三支部三十九校で構成されています。地区全体としては十五校の中学校とともに全淡小学校長会を組織し、総会・研修会、研究大会、研修大会という年間三回の研修会で会員相互の連携を深めながら活動を進めています。

今年度は、総会・研修会を五月二十日に南あわじ市の広田地区公民館で開催し、研究大会は十一月二十二日に淡路市地域総合センターで関西学院大学社会学部教授の貴戸理恵氏を講師にお招きし、各市代表による学校経営発表を行いました。また、一月には研修大

編集後記

調査広報副委員長 梶 原 秀 規

兵庫県教育委員会では、平成十六年から十一月を「兵庫の教育推進月間」と設定し、学校、家庭及び地域社会が連携した教育活動や、子どもたちの教育への県民の理解を一層深めるための取組を推進しています。

また、本年度より、社会全体で教育の重要性を見つめ直し、考える機会を設けるとして十一月一日を「ひょうご教育の日」に制定しました。

県内の校長先生方は日々、開かれた学校からさらに一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域

会を計画しており、学校経営上の課題とその解決に向けて取り組んでいる実践を分科会で交流する予定です。

古くから淡路島は「御食国」ともいわれるように、海の幸・山の幸に恵まれ、自然豊かで風光明媚な島として有名です。近年の観光ブームにより新たな開発が進み島の風景も大きく変貌していますが、児童数は年々減少傾向にあります。今後は学校統廃合によるさまざまな影響が懸念されているところです。

時代の変化とともに学校を取り巻く環境が大きく変化している現在、「淡路は一つ」を合言葉に島内小中学校が連携を深め、さらなる学校経営の充実に向けてまいります。

（淡路市立多賀小学校長）

と一体となつて子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指し、強いリーダーシップを発揮して学校運営をされていることと思います。

そんな中、皆様から頂いた現場の抱える状況を教育懇談会資料としてまとめ、県教育委員会事務局との教育懇談会を終えました。今回、その報告や様々な教育課題に向かわれる姿を掲載させていただきながら、兵庫に集う仲間的心合わせに微力ながらも役立てることを願っております。

最後になりましたが、校務ご多用な中、本会報に玉稿を賜りました校長先生方に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

（朝来市立牧田小学校長）